

もっと、住み続けたい街へ
めざす。
やりぬく。

～いざき義治の市民とのお約束～
(マニフェスト)

平成27年3月1日現在

このマニフェストは、平成22年度に議会で議決された10か年の「流山市後期基本計画」に明記した多くの事業を土台とし、今回の選挙で市民とのお約束として加え拡充するものをお示しします。防犯や防災分野を含む具体的な施策については、本マニフェストとあわせて、流山市ホームページに掲載されている「流山市後期基本計画」もご覧ください。また後期基本計画やマニフェストに記載されていなくても、毎年、見直しを行い、市民のニーズに速やかに対応して参ります。



立候補決意のご挨拶

効率的・効果的な市政経営の実現にむけて、「1円まで活かす市政」、「市民に役立つ行政」、「流山の可能性を引き出す街づくり」を掲げ、全力でその実現に取り組んできました。その結果、他の自治体から先進事例として評価されるようになってきました。また、「住み続けたい市民の割合」は82%*、「居住地として流山を第一希望として選んだ方」も62%**と過去最高となっています。この流れを加速し、「住み続けたい良質な街」を創る挑戦者として、次期市長選に立候補することを決意致しました。市民の皆様と一緒に、「もっと、住み続けたい流山」をつくってまいります。

*2013年度市民まちづくり達成度アンケート

**2014年転入者アンケート



■これから4年間の3つの「めざす、やりぬく」経営方針

(1)「住み続ける価値の高い街」、めざす。やりぬく。

福祉や子育てなどの行政サービスも、市役所のあり方も、街づくりも、新しい発想を取り入れ、市政をどんどん前進させます。流山市は、環境・子育て・街づくり、マーケティングや公共施設の経営管理など、様々な分野で全国から多くの視察を受け、マスコミにも取り上げられるようになりました。今後も、世界保健機関の「健康都市」づくりや、健全財政維持、安心安全な街づくりも含め、住む価値を高める市政経営を推進します。

流山市の「住み続けたい市民の割合」(定住意向率、2014)は82%で、首都圏でもトップクラス。最近では住宅を探すときに「流山市」を指名して探す方が転入者の62%と過去最高となりました。さらに「住みたい街」「住み続けたい街」となる施策を積み重ね、流山の「住み続ける価値」を高めます。

(2)「市民の知恵と力が活きる街」、めざす、やりぬく。

市民の知恵と力が活きる街をめざして、殆どの公共施設に指定管理者制を導入、審議会委員への市民公募委員は22%を39% (H22とH26)に増やし、政策立案段階での市民参加のパブリックコメントも制度化しました。

平成15年度から始めたタウンミーティングも26年末までに通算127回開催するなど、市民の知恵と力を活かす取り組みは着実に前進してきました。今後、これらの流れを定着させ、さらに改善を図ります。

また、流山市の情報公開は2010年以来、日本一となっていますが、市のデータを市民や民間が利用しやすくするオープンデータを推進し、市のデータや情報を、「知る」だけでなく「使う」利便性を高めます。

(3)「可能性をカタチにする街」、めざす、やりぬく。

今まで、流山は人・モノ・お金が出ていく街でしたが、集まる街に変わりつつあります。これを加速するため、流山本町の古い町並みや、利根運河の自然を活かしたツーリズムを推進し、今後4年間で来訪者数を倍増させ、賑わいと地域経済の活性化を図ります。また農業についても、挑戦する農業者の支援や地産地消を推進します。

現在、工事が進む市民総合体育館の建替えや、計画中の流山おおたかの森駅北口駅前の市有地に予定されているホールや市民総合窓口センター、さらに南流山センターの機能の拡充や南流山小学校の増築に合わせた南流山地域交流センターの新設については、利用者に便利で快適な施設となるよう、開業後の運営やサービスまで含めて、専門家を交えて準備を進めます。



マニフェスト



時期

[27年度]:27年度に実施・完成
[28年度]:28年度に実施・完成
[29~30年度]:29~30年度に実施・完成,
[毎年度]:毎年実施、推進

予算(概算)

(ゼロ):予算0円、(~1億円)、
(1~10億円)、(10~20億円)、
(20~30億円)、(30億円以上)

これから4年間の 7つの「めざす、やりぬく」基本政策

1. 「母になるなら、流山市」(子育て環境の充実)

・この5年間(平成22.4~27.4)、認可保育園の定員を2.1倍(1789人→3720人)に増やし、人口に対する定員数は千葉県でトップになりましたが、それでも待機児童が発生しています。今後も、待機児童ゼロを目指して、認可保育園、認定こども園などの整備を全力で進めます。

・市内の幼稚園の定員も約9割となっています。認定こども園の新設を図り、幼稚園のニーズにも積極的に対応します。

・共働き世帯や職場復帰を願うお母さんたちのニーズに応えるため、27年度から4年間で、学童保育定員数を2倍以上に整備し、まず3年生までは希望者全員が入所できるようにします。

・学童保育の小1の壁を乗り越えるため、夜9時まで予約制でお子さんをお預かりできるよう、各学童保育所が自主事業として実施できる環境を整えます。

・子育て中のお母さん・お父さん向けに、育児・しつけ、家事、教育など各種の講座・講演会について、市民の皆さんと協働し、また市民の企画を実施・支援していきます。

毎年度

1~10億円

毎年度

~1億円

毎年度

1~10億円

27年度

ゼロ

毎年度

~1億円

- ・子育て中・育児後の女性の起業、再就職のためのセミナーや情報交換会の場を、市民の提案を活かしながら実施・支援していきます。 毎年度
～1億円
- ・公園などの放射能汚染調査や給食の食品安全性の確認検査を続け、万が一、基準値以上の汚染が確認された場合は、即、対応をとり安全・安心を確保します。 毎年度
～1億円
- ・子育て環境の充実したマンションを誘導するため、「子育てにやさしいマンション認定制度」を導入します。 28年度
ゼロ

2. 「学ぶ子にこたえる、流山市」(教育環境の充実)

- ・平成26年度の中学校へのエアコン導入に続き、平成27年度、既存の15小学校にもエアコンを導入します。 27年度
10～20億円
- ・学習サポート教員・サポート指導員や算数・数学指導員を小中学校に配置し、英語、国語、算数・数学について児童生徒にあわせたチームティーチングを推進し、学力向上を進めます。 毎年度
～1億円
- ・長崎小学校で教育効果を上げている「主体性開発プログラム」を段階的に拡大し、児童・生徒の主体性や能力の可能性を引き出します。 毎年度
～1億円
- ・学力テストの全教科で、小・中学校ともに、千葉県平均、全国平均を上回っている流山市の教育水準を、上記の取り組みなどにより、さらに向上させます。 毎年度
1～10億円
(重複)
- ・小学校では、今年度、改定した「流山市独自の英語教育プログラム」や国の「英語教育強化地域拠点事業」を活用し、児童の体験的な英語学習を進め、積極的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を育みます。 27年度
～1億円
- ・英語指導助手(ALT)を配置し、日常的に英語に接する環境を推進します。 毎年度
～1億円
- ・中学校3年生時点での英検3級取得率を、過去4年間で32%から県下トップの40%に伸ばしました。さらに10%の向上をめざします。 29～30年度
～1億円
(重複)
- ・市民総合体育館の建替えでなくなるサッカースペースについては、新川耕地スポーツフィールドの移転新設時に、サッカーコート2面を整備します。また人工芝化を計画します。 28年度
1～10億円

3. 「安心の長寿社会」(高齢者社会への対応)

- ・長寿社会はこれからが本番。車や自転車の運転ができなくなる方も増えています。そこで、路線バスやぐりーんバスの新ルートや運行ダイヤの改善を図ります。
毎年度
～1億円
- ・市内の愛友会記念病院、中央病院、流山市に隣接するおおたかの森病院の協力のもと、事前登録した高齢者が無料で利用できる「高齢者移動支援サービス」を実施していますが、市内全病院の協力を頂きながらさらに拡充します。
毎年度
ゼロ
- ・今まで2年に1施設の割合で増設をしてきた特別養護老人ホームの建設を加速します。今後4年間で、3～4つの特別養護老人ホームの開設を支援し、要介護3以上の方の待機者ゼロをめざします。
毎年度
1～10億円
- ・人気が高い「ゆうゆう大学」を今後4年間で2か所新設し、高齢者の元気な仲間づくり、地域活動を支援します。
29～30年度
～1億円
- ・庭の手入れがやり切れない、階段の利用が困難でご自宅の2階を利用していない戸建住宅にお住まいの方に、今年スタートした高齢者住替え支援制度の普及促進を図ります。
毎年度
ゼロ
- ・肺炎球菌ワクチンなどの各種の予防接種の拡充、心電図検査の復活や脳ドック補助をスタートするなど、元気に生活するための保健・医療事業を拡充し、健康をサポートします。
毎年度
10～20億円
- ・高齢者が地域で集い交流する「ふれあいの家」は現在15か所。運営者となる自治会、NPO、市民団体に働き掛けながら、今後4年間で8か所をめざし、元気に生活できる環境とコミュニティ形成を進めます。
毎年度
～1億円
- ・障がい者(児)を持つ保護者の方々から、親亡き後の安心の体制づくりに強い要望が寄せられています。その実現のため、障害者のグループホーム建設と福祉手当の見直しを一体的に進めます。
28年度
1～10億円
- ・全国で5番目、千葉県で初めて、医療機関・歯科医院・薬局・訪問看護ステーションや地域包括支援センターが協力して、市内全体で在宅医療にかかる情報連携を推進します。医療・介護を必要とする状態になっても、人生の最後まで、住み慣れた住宅や地域で暮らせよう支援します。
27年度
～1億円

4. 「市民の知恵と力を活かすまち」(市民自治・協働の前進)

- ・4つの公民館と生涯学習センターに加え、27年度に「おおたかの森地域交流センター」、その後、南流山地区に「地域交流センター」を新設し、市民が学び活動しやすい環境を拡充します。
27年度、
29~30年度
1~10億円
- ・人口増で手狭になった南流山センターの図書館や公民館を、民間活力を活用し拡充整備します。
29~30年度
1~10億円
- ・市民の知恵と力が活きるしくみとして、平成18年度から公共施設の指定管理者制度の導入を進め、現在、約9割の公共施設が指定管理者によって運営されています。今後、指定管理者がより力を発揮する自主企画事業や利用体制の見直しを図り、市民の夢や願いがカタチになる環境整備を進めます。
29~30年度
1~10億円
- ・市長就任時から始めた市民と市長の直接対話「タウンミーティング」は平成26年末で127回。今後も継続し、市民の意見や提案を市政に反映します。
毎年度
ゼロ
- ・平成24年度に制定された市民参加条例に基づき、市審議会の市民公募枠を増やし(市民公募委員はH24の22%→H26の39%)、政策検討段階から市民の意見を反映させるため、昨年末までに68件のパブリックコメントを実施しました。今後も、市民の意見を反映できるしくみの改善を図りながら、市民の知恵と力を活かすしくみを定着させます。
毎年度
ゼロ
- ・流山市の情報公開は、「情報公開調査」(日本オンブズマン連絡協議会)で2010年以降、連続、日本一となっています。これからも、公開内容を見直しつづけ日本一を維持していきます。
毎年度
ゼロ
- ・今まで各自治会で対応して頂いた防犯灯の設置や維持管理の労力と経費削減を支援するため、流山市が一括して維持管理を行うように見直します。
27年度
1~10億円
- ・防犯灯の設置・維持管理の自治会負担軽減と温室効果ガス削減のため、27年度に全防犯灯をLED化し、28年度から市が維持管理を行うように見直します。
28年度
~1億円

5. 「都心から一番近い森の街」(緑の回復と良質な街づくり)

- ・流山おおたかの森駅東口駅前通りの街路樹整備を完成させる他、大堀川下流域に桜を植樹し、柏市の手賀沼まで続く桜のプロムナードを完成させます。
28年度
~1億円

- ・これから3年ほどで生まれ変わる流山おおたかの森駅の西口駅前や北口駅前を、「都心から一番近い森のまち」のシンボルとなる緑いっぱいの街に整備します。
 - 29~30年度
 - ～1億円
- ・おおたかの森駅北口方面に近隣公園を、西平井・鰐ヶ崎地区に大型の街区公園などを整備します。
 - 28年度
29~30年度
 - 1～10億円
- ・都市化で失われた緑を回復するため、今まで約1万5千本以上の木を街の中に植えてきた「まちなか森づくりプロジェクト」を継続するとともに、街路樹整備・公園整備・緑地保存、グリーンチェーン認定制度を推進し、平成27年度から5年間で37.5万m²、東京ドーム8個分の緑地を増やします。
 - 毎年度
 - 1～10億円
- ・T X線各駅周辺の「商業・業務地域」を除き、「高さ制限の導入」や「都市計画の見直し」により、良質な戸建住宅街の環境を守ります。さらに地区計画や高齢者住替え支援制度、各種の条例規則を見直により、良質な街づくりを進めます。
 - 28年度
 - ～1億円
- ・流山本町のツーリズム推進計画に基づく道路・沿道景観の整備や、T X沿線おおたかの森駅、セントラルパーク駅周辺の緑化・無電柱化により、景観向上を推進します。
 - 毎年度
 - ～1億円

6. 「可能性をカタチにする街づくり」(都市計画・地域経済の飛躍)

- ・イベントやツーリズムなどで市内外から流山を訪れる方(交流人口)は過去11年間に約4倍に増えました。同時に、市外からの来訪者が4割を超えるようになりました。歴史文化を活かした流山本町と自然を活かした利根運河のツーリズムの推進などで、4年後の交流人口を2倍にし、地域経済の活性化と賑わいを創りだします。
 - 毎年度
 - ～1億円
- ・2016年春にオープン予定の市民総合体育館の運営準備をしっかり進め、市民が快適に利用しやすい施設にします。また2020年東京オリンピック・パラリンピックにむけて、海外チームのキャンプ誘致を進めます。
 - 毎年度
 - ゼロ
- ・流山おおたかの森駅北口の市有地に、音響に配慮した多目的ホールや市役所の窓口を集めた(仮)「市民総合窓口センター」、ホテルを含む商業・業務施設の平成29年度完成をめざします。
 - 29~30年度
 - 1～10億円
- ・流山おおたかの森駅北口に新設する(仮)「市民総合窓口センター」は、市民に便利で使いやすいレイアウトや機能を整備するとともに、パスポートの取得・更新手続きもできるよう準備します。
 - 29~30年度
 - ～1億円

- ・六次産業化など積極経営に挑戦する農業経営者に対して、認定農業者研修、経営融資などで支援するほか「このまちごはんプロジェクト」や野菜も含めた地産地消を拡大します。 毎年度
～1億円
- ・流山市の補助金対象事業を可能な限り、市内業者への発注を条件とし、地域循環型の地域経済を促進します。 毎年度
～1億円
- ・つくばエクスプレスの東京延伸の可能性は、27年度中に発表となる国土交通省運輸政策審議会の内容如何にかかわっています。沿線自治体の足並みをそろえ、各方面への働きかけを行うため、今まで以上に先頭に立って、実現にむけて動きます。 27年度
ゼロ

7. 「億円単位で節約するしくみ」(効率的・効果的な市政経営)

- ・財政健全度ランキングで全国790自治体中、41位の流山市(東洋経済:2014)。限られた財源の中で財政需要は増え続けますが、財政計画や財政指標、事業の優先順位の見直しを継続的に行い、健全財政を維持します。 毎年度
ゼロ
- ・「1円まで活かす市政」で10年前と比べて、同じ仕事を6割の費用で実施できるようになりました。今後、「1円まで活かす市政」をさらに進め、民間の経営手法も導入しながら、効率的効果的経営を推進します。 毎年度
ゼロ
- ・職員削減により人口に対する職員数はすでに千葉県下一少ない流山市。今後、市職員数を一定に保ちながら、質の高い職員研修を増やして、より効率的な仕事で、より大きな成果と効果を生み出します。 毎年度
～1億円
- ・26年度から全職員を対象に、ボーナスや昇給昇格に反映する人事評価が始まりました。この制度の定着と適切な運用で、職員のやる気を引き出し、市民に役立つ市役所の前進を図ります。 毎年度
ゼロ
- ・9年前、全国の自治体で初めて「立会議」を導入し、職員と市長の会議時間を1/3に圧縮しました。今後、作業効率の良い「立机・立作業」も導入し、職員の生産性を引き上げます。 毎年度
～1億円
- ・公共工事などで談合情報を入手した場合、市長自ら、公正取引委員会に告発します。 毎年度
ゼロ

